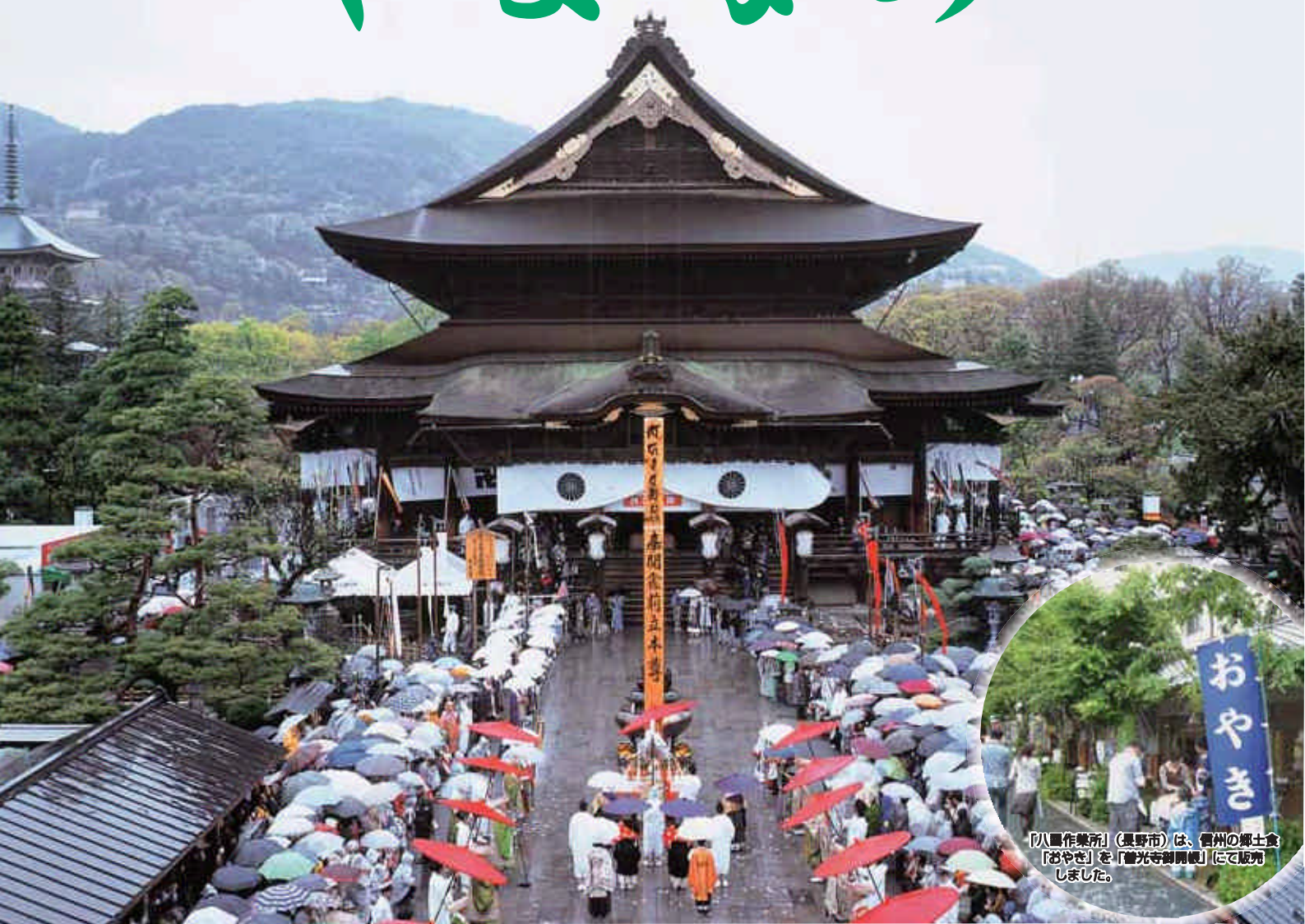


事業団  
だより

# やまなみ

夏 Vol.1  
2009年 創刊号



「八景作業所」(長野市)は、信州の郷土食「おやき」を「普光寺御開帳」にて販売しました。

### 【特集記事】

・長野県社会福祉事業団の地域生活移行への取り組み

### 【連載記事】

- ・事業所リレートーク
- ・チャレンジ・アクション「「ひよこ」の一步」、「レッツゴードダンス!」
- ・つれづれ福祉「地場産ケチャップ作りに協力」

- ・平成 21 年度組織概要
- ・平成 21 年度事業計画・収支予算書
- ・平成 20 年度事業報告・収支決算書
- ・人事異動
- ・プレゼント

写真提供: 普光寺



いじま ひろゆき

長野県社会福祉事業団  
理事長 辰野 恒雄

昭和四〇年、知的障害者施設「水内荘」を持つてスタートした長野県社会福祉事業団は、県の外郭団体の見直しや指定管理者制度などの道を経て、今、地域移行の先駆けとなった「長野県西駒郷」など一七事業所が深い緑の中で息づいています。

措置から契約、自立支援へと周辺の状況が大きく変わる中、当法人は平成一九年に策定した長期構想(平成二五年三月末までの六年間)を軸に、公益性を標榜し、県全域にわたってそれぞれの地域づくりに寄与できるように努めてきています。

私は学生時代を京都で過ごした関係から、「日本型ノーマライゼーション」の提唱者と言われる近江学園長の糸賀一雄さんに会い、勧められこの道に入っています。が、「この子らを 世の光に」の思想は正に今の時代に実現しつつあるところでしょう。

奢ることなく地域の一員となつて、しかし、広い視野で状況を見つめ、先導的な試行等によって得られた情報の発信を怠らず、今後も共に進みたいと思います。

この便りは年二回の発行です。私たちの鼓動をお聞きください。

# 長野県社会福祉事業団の 地域生活移行への取り組み

「西駒郷基本構想」の策定から6年…。  
事業団は西駒郷の指定管理者として「地域生活移行」の取り組みに対し、積極的に  
推進する中核的な役割を担ってきました。  
事業団のこれまでの取り組みについて紹介します。

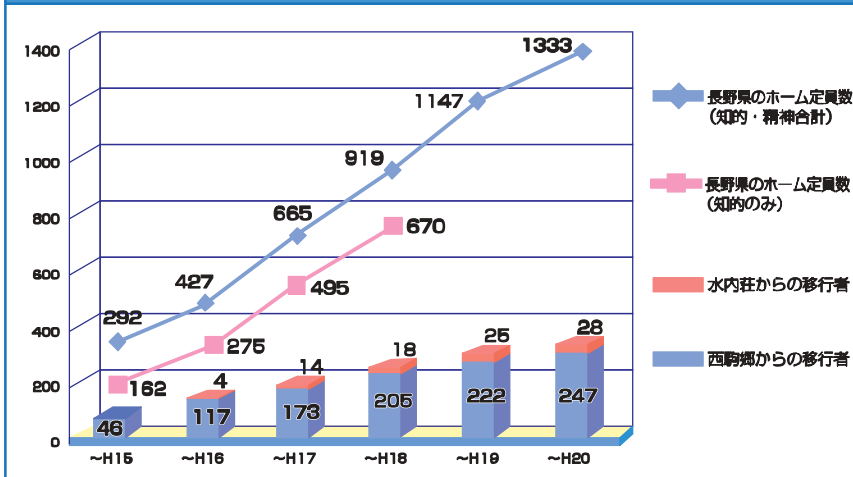


## はじめに

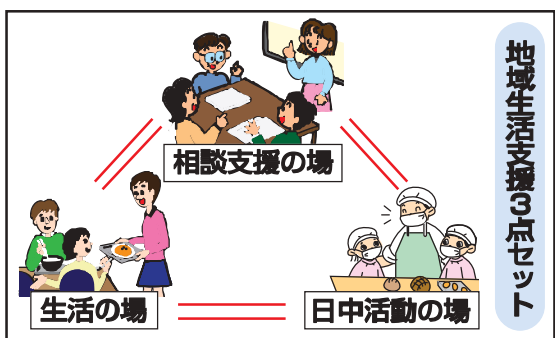
長野県社会福祉事業団では、知的障害者入所施設「水内荘」を中心に事業団独自事業として、平成8年から自立度の高い障害者や就職された障害者のためのグループホーム・ケアホーム（以降「ホーム」という）を設置運営してきました。しかし平成16年3月に「長野県西駒郷」（平成17年度より事業団指定管理）の運営について「西駒郷基本構想」（県ホームページ参照）を県が策定したことに伴い、県主導による障害者の地域生活移行がスタートすることになりました。

事業団では、両入所施設において体制整備をするとともに移行計画を作成し、積極的に地域生活移行を推進しました。また、地域生活移行者が、本人の希望する地域で安心安全な生活を送ることができるよう、既に実施していた①生活の場（ホーム等）の確保に加え、②相談支援体制の整備③日中活動の場の確保（地域生活支援3点セット）事業も実施することになりました。

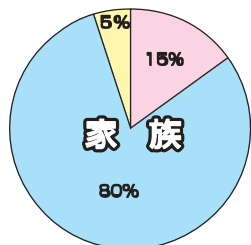
長野県内のホーム定員数および事業団入所施設からの地域生活移行者数の推移（累計）



平成19年度途中から、障害の区分なく集計のため、知的のみのホーム定員数は把握できず  
参考資料：西駒郷地域生活支援センターホームページ「長野県の地域移行の取り組み」より



## 家族についての聞き取り調査の状況



参考資料：西駒郷地域生活支援センターホームページ「西駒郷の地域生活移行についての聞き取り調査の状況」（H21.4.1現在）より

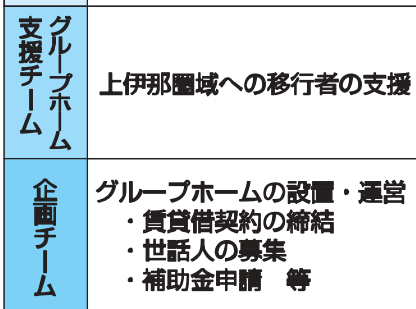
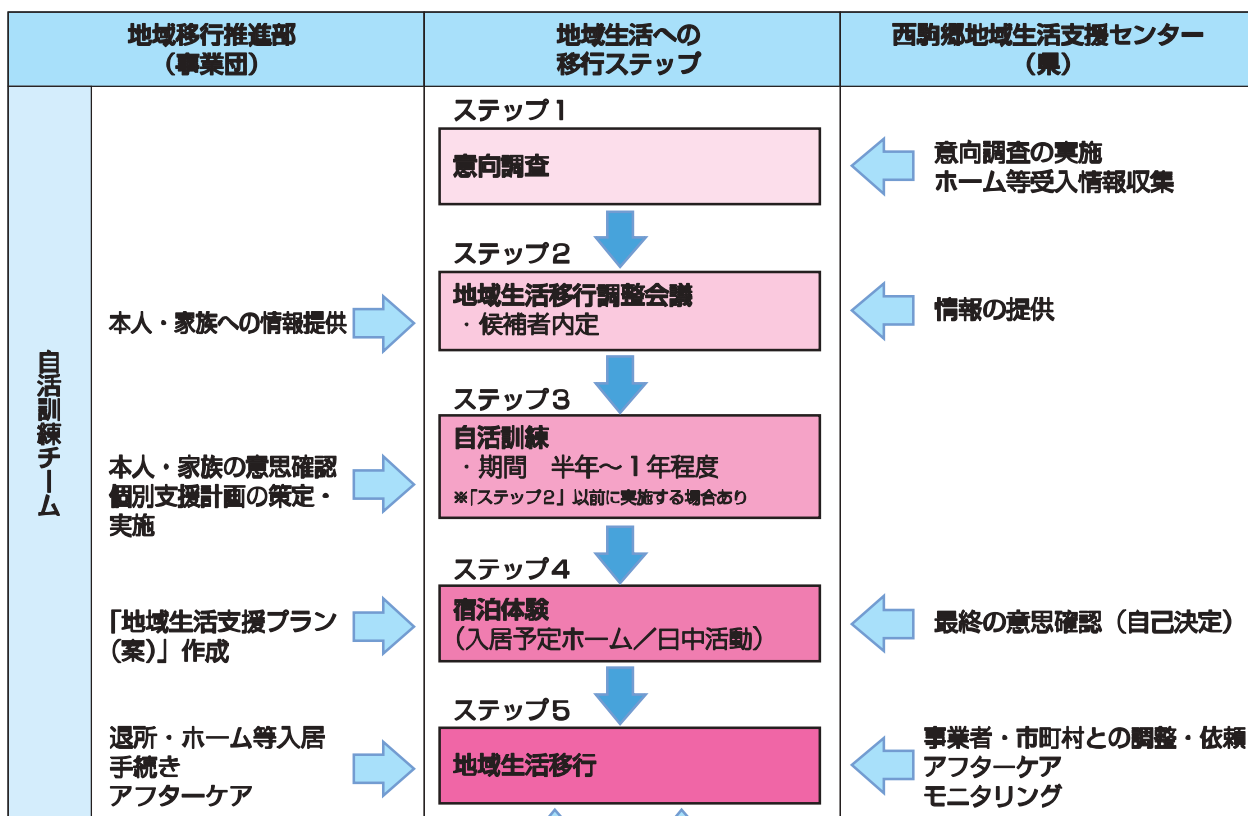
# 地域生活移行に向けた支援体制の整備

西駒郷では、利用者の地域生活移行に向けて下表の「地域生活への移行ステップ」とおり本人（家族）の意向を尊重し、基本的には出身地のホーム等を利用することを旨としました。支援体制について、本事業の基幹部門として、県は西駒郷内に「西駒郷地域生活支援センター」を置き、事業団では自活訓練・グループホーム支援・企画の3チームからなる「地域移行推進部」を新設（平成16年4月）し、相談支援は上伊那圏域を対象に「上伊那圏域障害者生活支援センター」があたりました。

一方、水内荘においては、平成16年4月より、施設整備（ホーム・日中活動の場の設置）は総務課が、自活訓練事業（敷地外1箇所）・ホームの運営・相談支援事業は支援課が担当し、推進にあたりました。また、平成17年4月には、相談支援事業を独立事業所「長野圏域障害者生活支援センター歩楽里」でおこなうこととしました。

ちなみに、現在までに事業団が設置運営した事業所等は生活の場「30ホーム・利用者数147人」、日中活動の場「9事業所・利用者数222人」となりました。その位置図は、8ページのとおりです。

【西駒郷における地域生活移行の手順および役割分担】



西駒郷における自活訓練棟設置状況

区分	訓練棟(定員)
敷地内	アカシヤホーム(11)
	すみれホーム(4) ※重度
	アジサイホーム(10)
敷地外	松崎ホーム(4)
	せせらぎホーム(4)
	竹村ハイツ(6)

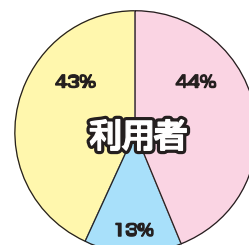
## ～西駒郷における地域生活移行への本人と家族の理解～

平成20年度末までの地域生活移行者は247人となりました。平成15年7月県の聞き取り調査では、地域生活移行希望者は242人(全利用者数437人の56%)でした。

西駒郷では利用者に「ホームの暮らし」が理解できるよう、移行した友人の話を聞く機会を設けたり、ホームの体験や自活体験を行ってきました。平成21年4月「西駒郷地域生活支援センター」の利用者・家族への聞き取り調査(右グラフ)で、「地域移行希望」の利用者は80人(全利用者187人の44%)ほどでした。一方、家族は、80%が「施設希望等」であり、利用者との間に大きな意識の違いが見られます。ちなみに、18年3月県が地域生活移行者家族にアンケートしたところ、74%が「地域生活移行してよかった」との回答でした。

## 西駒郷の地域生活移行に

- 地域移行希望
- 施設希望等
- その他  
(意志表示困難  
無回答 ほか)



## 地域移行した利用者はどのように感じているのか？

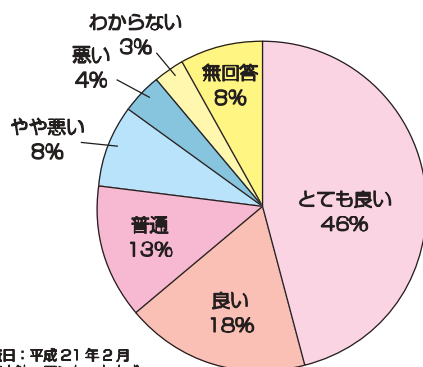
地域生活移行者に対して、「西駒郷地域生活支援センター」(県)と「地域移行推進部」(事業団)では移行後1年間をめどにアフターケアを行っています。地域生活移行事業開始間もない頃、ほとんどの地域生活移行者は地域生活移行に肯定的でした。しかし、中には「友人と別れてしまって寂しい」「余暇の過ごし方が分からない」「世話人とうまくいかない」等の声が聴かれました。

平成21年2月「ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター」(上伊那圏域の事業団事業所)では、ホーム利用者に「顧客満足度調査」を実施しました。アンケートの中で、「グループホームの生活は暮らしやすいですか」との問いに、「とても良い・良い」64%、「普通」13%、「悪い・やや悪い」12%という結果でした。「悪い・やや悪い」理由としては、事業開始時同様「余暇利用が思うようにいかない」などの声が聴かれるほか、「対人面での問題(うるさい人がいる)」「建物が古い」などがあげられました。



平成20年度ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター 顧客満足度調査

グループホームの生活は暮らしやすいですか。



調査日：平成21年2月  
調査方法：アンケート方式  
回答数：61人/80人(回答率76%)

## 実践経過及び満足度調査からみた今後の方策提言

### (1) 今後の地域生活移行を推進するために

本人の希望を中心に、地域生活移行に比較的障害の軽い利用者及び受け入れ要請のあった圏域の利用者を優先した結果、現在西駒郷に残る利用者(二八七人)は、平均年齢は下降したものの、障害の重い方、真犯・触法等のある方、健康面(精神等)で不安のある方が残る結果になりました。今後の地域生活移行を阻む要因としては、「本人が希望していない」「家族が不安を持っている」「希望しても出身圏域の受け入れが整備されていない」「障害の重い方の受け入れ場所が極めて少ない」等があげられます。

今後に向けては、利用者個々のケアプランに基づく安心安全なホームでの生活を確保しつつ、家族及び本人の不安をどう取り除くかが最大の課題であり、また重度者対応のホーム整備や遅れている圏域のホーム・日中活動の場の整備も必要です。

### (2) 移行者が地域の中で自立的な地域生活を送るために

#### ア サービスの質の確保

事業所として、まず利用者の直接支援者である世話人について、雇用情勢が厳しい中、世話人確保に努めるとともに資質の向上を図る必要があります。また、施設生活が長い(二十年以上)利用者が多いため、集団生活には慣れているものの自立的生活への意欲に欠ける方や小集団での寂しさを訴える方が見られます。また最近増えつつある養護学校を卒業した若い利用者との関係がスムーズに行かない面があり、人間関係の改善が大きな課題です。一方、ホーム(建物)については、早急に整備が行われたことにより、プライバシー保護や居住性・安全性の視点から改善する必要があります。

ります。また、高齢化(平均・水内荘グループホーム・ケアホームセンター)五九、九歳、ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター(四七歳)等利用者の状況の変化や要請に対応できるようなハード面、ソフト面での充実を図る必要があります。



#### イ 地域理解とネットワークの構築

利用者から「余暇を楽しむために稼きたい」「余暇活動をする場所がない」「地域の行事に参加しにくい」などの声があり、本人だけでは解決できない課題があります。

近年、地域にホームがたくさんできたため、地域住民の障害者への理解は確実に進んだと思われ、ですが、ホーム利用者が地域の中で自立的に生活していくためには、更なる障害者理解と日々の挨拶に始まる「地域交流」や「緊急時の安全ネット」「余暇活動の支援ネット」等関係機関・団体も含めた協働体制の整備が必要です。

今後に向けて事業団は、こうした課題・方策を実践するとともに本紙等をおして情報発信していきます。また、「障害者の地域生活」「共生社会」を実現するために、これまでの実践経過を総括し、「障害者」の視点だけでなく、「地域住民・地域社会」や「長野県風土」の視点から「障害者の地域生活」を捉えなおして、新たな展開を検討していきます。

(降篠)



## ① 長野県障害者福祉センター「サンアップル」

長野県障害者福祉センター「サンアップル」は、障害者の「スポーツ活動支援」「文化活動支援」の2つの事業を柱に平成10年4月に開所されました。

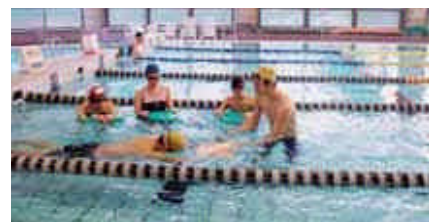
サンアップルは南北に広い長野県の北に位置しているため、全県の利用希望者の声に応える形で平成15年8月南信の駒ヶ根市（長野県看護大学内）に「サンスポーツ駒ヶ根」を、平成18年11月中信の松本市（松本市総合社会福祉センター内）に「サンスポーツまつもと」を、それぞれサテライトとして開設し、日頃のスポーツ教室のほか、各種大会も各地域でも開催できるようになりました。

さらに今年度は佐久市の協力を得て、東信にもサテライト「サンスポーツ佐久」を開設し、県内をくまなくカバーできるよう計画しているところです。

一方、文化活動においても「長野県障害者文化芸術祭」をはじめ、講師派遣による出前教室の開催などを他団体等と連携しながら県内全域で積極的に実施しています。

こうした活動を通じて県下各地に障害者のスポーツ、文化活動が活発になることを願っています。

今後も身近に感じてもらえるサンアップルを目指します。どうぞ皆さん、どんどん活用してくださいね」（佐藤）



## ③ 伊那ゆいま～る

「ゆいま～る」?? 皆さんは、まずこの事業所名を不思議に思われたのではないのでしょうか。

神輿の言葉で、「結い」と「廻る（順番）」を語源とし、「ここを結ぶ」「支えあう」「仲間」という意味をもっています。

「NPO法人ゆいま～る」が平成13年に「暖かな皆の場所になりたい」との思いで、「ゆいま～る共同作業所」の運営を開始しました。しかし、同法人の諸事情により、平成21年4月に事業団が移譲を受け、新たに多機能型事業所「伊那ゆいま～る」として事業団の「仲間」となりました。

「就労継続B型事業」には24人、「生活介護事業」には8人の利用者が所属され、古布加工による縫製・木工の自主製品づくりや受託作業を行い、「やりがい」のある毎日を過ごしています。



また、時には近隣へのバスハイキング等のレクリエーションを採り入れ楽しんでいます。

精神・身体・知的に障害を持たれた方々が、お互いを尊重しあいながら日中活動を開始した「伊那ゆいま～る」、まだまだヨチヨチ歩きですが、名前のとおり結いが丸～るく過ごせる事業所を目指して、さらに皆で育てていきたいと思っています。（有賀）



## ② 辰野町障害者就労支援センター「工房ぬくもり」

事業団が指定管理者として運営している辰野町地域活動支援センターに隣接して、今年4月に開設しました。

当センターの愛称は、町の一般公募により「工房ぬくもり」に決まりました。職員一同、愛称に名前負けしないよう『地域の中でぬくもりを感じられる事業所運営をすること』を肝に銘じました。

現在「工房ぬくもり」は、北信に比べ南信では珍しい「うどん製麺作業」を柱に、企業からの受託作業と合わせて、18人の利用者が生産活動に励んでいます。

「うどん製麺作業」は、北信の柄木田製粉㈱より原材料を仕入れ、マーケティング技術アドバイザーの齋藤さん（現代の名工、信州の名工）の指導により、早くもここでしか味わえないうどんを実現しました。

なお、うどん名は辰野町の町花「福寿草」にちなんで「福寿うどん」としました。

4月15日の製麺開始当初から、「荒神山祭り」や「ほたる祭り」など地域のイベントへの出店依頼が数多くあり、またリピーターも増えつつある中で、本物のうどんの味を南信に広め、工賃アップにつながるよう、利用者、職員一同努力しているところです。

今後も「こんなうどん作ったよ!」「このうどんおいしかったよ!」のキャッチボールを励みに精進してまいります。（落合）



## 地域の皆さんと「春のひよこ祭り」開催 地域に根ざした事業所を目指す「ひよこ」の1歩

「松本ひよこ」は、「NPO法人ひよこ」より設備等の移譲を受け、事業団が松本圏域ではじめての事業所として平成二十年四月に開所しました。開所から二年目。まだまだ「ひよこ」の「松本ひよこ」ですが、「チャレンジ」している取り組みを紹介します。

### 【開所してから】

「松本ひよこ」（旧称：ひよこ）は事業団に事業移譲される以前から、地域にひらかれた事業所を目指し、「地域活動支援センター」として誰でも気軽に立ち寄っていただけるよう「喫茶店」を開店してました。こだわりの焙煎コーヒーが評判でしたが、近隣・地域の方には「実際にはどこが運営してい



るのか」「何の施設なのか」あまり知られていない状態でした。

そして十一月、多機能型事業所に事業転換を行い、利用者の工賃アップに加え、地域と密着して行える作業として「パンの製造・販売」を導入しました。

### 【まずは地域の方に知ってもらうこと】

「松本ひよこ」の事業や活動を知っていたため、近隣・地域の方との交流を第一の目的とした「第一回春のひよこ祭」を平成21年5月30日に開催することを企画し、利用者と職員が歩いてチラシ配りをするなど、近隣の方に顔の見える挨拶と宣伝をおこないました。

当日はパン販売を主として、各種イベントや出店をおこなったところ、近隣・地域の方の他、遠くは他市町村からも来て頂き、予想以上の反響がありました。

また、ボランティアにはご家族や知人の方をはじめ、松本大学の学生、事業団職員等の協力もあり、祭りを盛り上げて頂き、心強い支えとなりました。

### 【ひよこ祭、その後】

お祭り開催後、パンの人気や「松本ひよこ」の認知度も少しずつ上がり、「パンはいつどこで売っているの?」「おいしかったよ」と近隣の方が声をかけてくださるようになりました。

また「近くを通っていたけど何の施設か知らなかった」とお祭りが「松本ひよこ」を知るきっかけとなったケースも多く、小規模ながらも「ひよこ祭」は「松本ひよこ」にとって大きな一歩となりました。



今後さらには地域の皆さんにもご協力・ご参加頂けるような形で、地域のお祭りとして定着するよう、「秋のひよこ祭」を開催する予定です。

また、利用者支援については、「地域活動支援センター」開所当時は、一日四〜五人だった利用者も現在十五人程になりました。今後も支援計画に基づいて、パンの製造・販売や喫茶店に力を入れるとともに、就労支援ワーカーによる学習会、療育活動など、一人ひとりが自分らしく「くらし」はたらくという願いを一緒にお手伝いするべく、新たな取り組みにチャレンジしていきます。（濱田）

## レッツゴーダンス!!

地域の中で余暇活動を楽しむぞー!

### ほっとフークスグループ

### ホーム・ケアホームセンター

当センターでは現在、上伊那圏域に19箇所のホームを運営していますが、このところ利用者（全92人）の休日の余暇活動支援の充実が課題となっていました。

そうした中、ダンスや音楽が大好きな方へエネルギー発散を目的に、センター職員とボランティアのダンサー四人が協力し、雪の降る平成二十一年一月から「伊那市福祉まちづくりセンター」を会場に、ダンス教室をスタートさせました。

毎月第二・第四土曜日の二回。この日を楽しみにしていた利用者が電車やヘルパー・世話人の車に同乗し、続々と会場に集まってきました。当初三十人程度だった参加者も、今では利用者世話人、職員を合わせて九十人を超えるまでとなり、毎回、みんなの熱気で室内はとても熱くなります。

一時間半の間「きよしのソーラン節」など四〜五曲を踊り、手遊びやゲーム、話などを採り入れながら「体を動かすことで皆さんの喜びや励みになるように」とダンサーの方々も力が入っています。

また、参加者の多くは元西駒郷利用者のため、休憩時間にはお互いの近況や昔話に花を咲かせるのも楽しみの一つとなっているようです。

今年も、地域のお祭りで発表の機会が持てるなど、上伊那圏域における余暇活動への「チャレンジ」は益々活動の幅を広げていくとのこと。今後も目が離せません。（安田）



# 地場産ケチャップ作りに協力

～ 水内荘、八雲作業所が市内の他施設とトマトの共同栽培 ～

地場産のトマトケチャップを生産している長野市豊野町の農業女性グループ「とまとくらぶ」からの要請で、事業団の「水内荘」「八雲作業所」のほか、「ワークセンターYUI」「障害者生活支援ハウスらぼーる」の四事業所が協力して、去る五月二九日、「豊野温泉りんごの湯」南側の約十坪の畑にトマトの苗三百本を定植、加工用トマトの共同栽培を始めました。

「とまとくらぶ」では、このケチャップを生産し、「豊野温泉りんごの湯」で販売を開始したところ大好評です。すぐに品切れとなったことから、生産拡大に向けて思案していました。

そうした折、同グループの一人が「同じ長野市豊野町にある」水内荘に「トマトづくりを委託してはどうか？」と提案があり、水内荘では「八雲作業所」との共同栽培を計画しましたが、両施設だけでは要請に応えられないか不安もあったため、近隣の二施設にも呼びかけたところ趣旨に賛同いた



き、共同栽培の運びとなりました。

「とまとくらぶ」代表の柳澤あや子さんは「水内荘だけでなく、多くの施設に協力していただいで大助かり。無農薬栽培なので何かと管理が大変ですがよろしくおねがしたい。」と期待を寄せてくださいました。草取りなどトマト畑の管理は四事業所合同で行いながら、

今は収穫の真っ只中です。また、作業の間には「これを契機に、四事業所間の交流を定期的に行ったり、職員の合同研修や人事交流等も行えればトマト以上の『収穫』が得られるのでは…」と、今後について話が膨らみました。

トマトの共同栽培を通じて今後の連携が期待されます。(小島)

トマトが結んだネットワーク

事業所名	主な事業内容	運営
ワークセンター YUI	就労継続支援 B 型事業 ほか	(社福) 稲田会
障害者生活支援ハウス らぼーる	生活介護事業 ほか	(有) えにし北長野事業所
水内荘	知的障害者援護施設	(社福) 長野県社会福祉事業団
八雲作業所	知的障害者通所授産施設	



**「有」えにし北長野事業所**  
**障害者生活支援ハウスらぼーる**  
**所長 松本 秀樹**

日頃、利用者も職員も「らぼーる」以外の人と接する機会が多くありません。今回他施設の皆さんとトマト栽培を通じて一緒に汗を流す機会をいただき、たくさんの刺激を受けました。

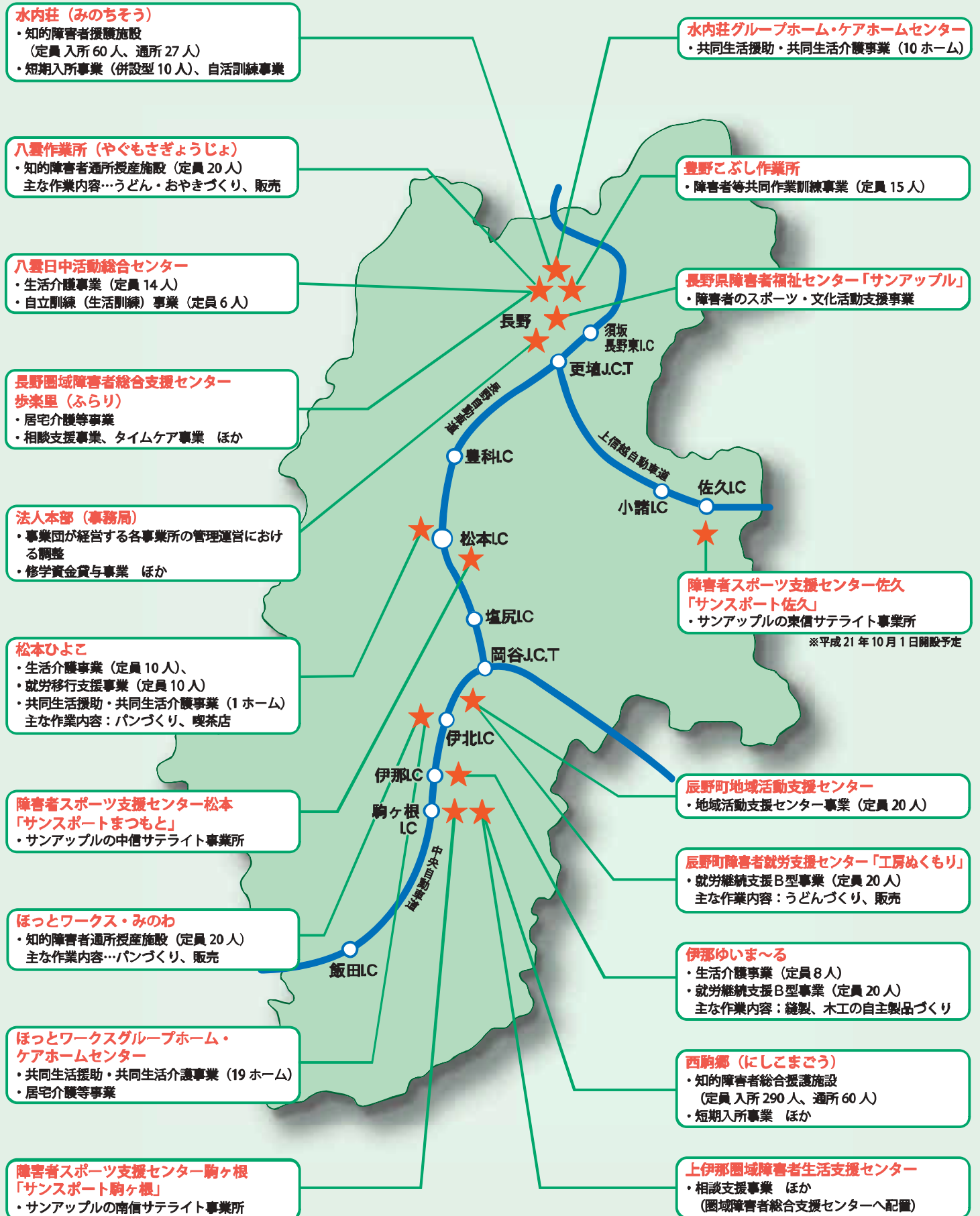
また、施設同士のつながりを築く意味でも素晴らしい出会いでした。

地域福祉が声高に叫ばれる現在、一施設で利用者支援のすべてを完結するのではなく、「横のネットワーク」が大変重要です。今回の四施設合同作業はまさにそれを象徴するかのような取り組みでした。さらにこのトマト栽培を通して豊野地域の地産地消事業に貢献できればうれしく思います。

**トマトの共同栽培に**  
**ちよつと一言**

# 平成21年度 組織概要

平成21年4月1日現在



※各事業所の連絡先等、詳細につきましては当法人ホームページからご確認ください。 <http://park19.wakwak.com/~nagano-shafuku-j/>



## 1 「西駒郷」、障害者福祉センター」の今後5年間の継続経営

本年度より5年間の継続経営となった県の指定管理事業所「西駒郷」及び「障害者福祉センター」については、第一期目に習得した両事業所の経営ノウハウを生かしつつ継続・懸案事業を実施して、更なるサービスの充実に努めます。

## 2 2箇所の新設事業所と1箇所の新設サンアップルサテライトの設置

自治体やNPO法人、地域住民の要請に応え、平成21年4月1日付けで上伊那圏域に日中活動の場2箇所と秋季には東信にサンアップルのサテライト「サンスポート佐久」を開設します。また、各事業所では、地域住民・団体との関係作りや利用者確保等をとおして、事業の充実と経営の安定化を図ります。

また、「共同生活援助・共同生活介護事業」では、水内荘グループホーム・ケアホームセンター1箇所、ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター1箇所、松本ひよこ2箇所、計4箇所の共同生活住居を開設します。

### ○新設事業所

事業所名	事業名	定員	支援内容
辰野町障害者就労支援センター	就労継続支援B型	20	自主生産（うどんの製造・販売）、 受託作業（塗装部品ラック掛け等）
伊那ゆいま〜る	就労継続支援B型	20	自主生産（木工、縫製製品等）、 受託作業（食品袋詰め等）
	生活介護	8	介護支援（入浴サービス等）、 療育等活動、軽作業
サンスポート佐久	スポーツ・運動支援	—	スポーツ・運動指導、 サークル立ち上げ協力

## 3 事業の充実、事業団改革推進に向けた人材の育成

質の高いサービス提供や自立的経営をするための「人材育成」を事業団の重点事業として、法人本部（事務局）主催の「事業団研修」（階層別研修）及び各事業所主催の「事業所研修」、「自主研修」（専門研修）を計画的に実施します。

## 4 事業団認知度アップと啓発活動を目途とした情報発信の充実

事業団情報発信充実のために下記4事業を実施・検討します。

- ①「事業団だより」の発行
- ②「事業団実践記録ビデオ」の制作・放映
- ③「地域生活情報誌」の発行
- ④「駒ヶ根高原ふくしセミナー」開催の検討

## 5 旧法4事業所の新事業体系移行に向けた検討

旧法により運営している事業所では、障害者自立支援法の将来が不明確な状況にあるものの、円滑な移行をするために、当初の予定時期を延期する方向で検討を継続します。

### ○新事業体系への移行予定

事業所名	移行予定年度
水内荘	平成22年度
八雲作業所	平成22年度
西駒郷	平成23年度
ほっとワークス・みのわ	平成21年度末



### 平成21年度収支予算総括表（法人合算）

（単位：千円）

区分		本年度予算額	前年度当初予算額	増減	
収入	就労支援事業収入（※注1）	50,330	38,066	12,264	
	経常収入	利用料収入等	1,370,966	1,245,774	125,192
		受託事業等収入	584,262	637,182	△52,920
		会館事業収入	3,305	3,606	△301
		補助事業等収入	22,698	20,688	2,010
		経常経費補助金収入	0	14,948	△14,948
		寄附金収入	2,050	150	1,900
		その他収入（※注2）	151,596	131,640	19,956
	小計	2,134,867	2,053,988	80,879	
	施設整備等収入	61,603	53,710	7,893	
	財務収入	借入金収入	86,979	53,500	33,479
		積立預金取崩収入	158,739	25,711	133,028
		その他の収入（※注3）	13,512	13,512	0
小計	259,230	92,723	166,507		
合計	2,505,930	2,238,487	267,443		
支出	就労支援事業支出（※注1）	50,330	38,066	12,264	
	経常支出	人件費支出	1,336,915	1,318,417	18,498
		事務費支出	301,582	269,660	31,922
		事業費支出	415,630	329,652	85,978
		その他支出（※注4）	133,085	109,811	23,274
		小計	2,187,212	2,027,540	169,672
	施設整備等支出	206,180	203,632	2,548	
	財務支出	借入金元金償還金支出	13,765	10,805	2,960
		積立預金積立支出	28,584	29,930	△1,346
		その他の支出（※注5）	34,270	5,827	28,443
		小計	76,619	46,562	30,057
	合計	2,520,341	2,315,800	204,541	
	当期資金収支差額	△14,411	△77,313	62,902	
前期末支払資金残高	362,371	309,458	52,913		
当期末支払資金残高	347,960	232,145	115,815		

注1 「就労支援事業収入・支出」科目の「前年度当初予算額」については、比較のため授産事業収入・支出科目の予算額を計上した。  
 注2 「経常収入」の「その他収入」は「雑収入」、「受取利息配当金収入」、「経理区分間（会計単位間）繰入金収入」の合計額とした。  
 注3 「財務収入」の「その他収入」は、「長期貸付金回収収入」の合計額とした。  
 注4 「経常支出」の「その他支出」は「経理区分間（会計単位間）繰入金支出」の合計額とした。  
 注5 「財務支出」の「その他支出」は、「長期貸付金支出」の合計額とした。

## 1 「長野県社会福祉事業団経営委員会」の新設

事業団経営管理の中核機関として「長野県社会福祉事業団経営委員会」を新設し、13回にわたり、理事会に付議する経営上の重要事項等について協議・決定しました。(経営委員：理事長、常務理事、事務局長、西駒郷所長、障害者福祉センター所長)

## 2 県「西駒郷」及び「障害者福祉センター」の再指定

平成 21 年 3 月をもって両事業所の指定管理者委任期間が終了するため、新たに平成 21 年 4 月 1 日から 5 年間の指定管理について申請し、再指定されました。

## 3 新規事業所の開設・経営

西駒郷の地域生活移行者の日中活動の場確保も念頭に置き、NPO法人「ひよこ」からの要請と松本市の協力を得て、「松本ひよこ作業所」を開設しました。4月に地域活動支援センター事業を定員 20 人で開始し、11月からは名前を「松本ひよこ」と改名し、多機能型事業所へ移行しました。

就労移行支援ではパンの製造販売、生活介護では入浴サービスをメインに支援しました。

また、「共同生活援助・共同生活介護事業」では、ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンターは 4 箇所、松本ひよこで 1 箇所計 5 箇所の共同生活住居を開設しました。

## 4 給与制度の改定

事業団の自立的な経営と職員が生活できる給与水準を念頭に置いた新たな給与制度を、平成 20 年 4 月より施行しました。

## 5 職員の採用

新たに「事業団職員採用中期計画」を策定し、平成 21 年 4 月 1 日付けで総合職職員 4 人、一般職職員 22 人、合計 26 人を採用しました。

## 6 研修事業の精力的実施

人材育成の重点事業として、今年度より新たに幹部職員を講師に「事業団レベルアップ研修」を 8 月・12 月に各 2 会場で開催しました。

また、各事業所でも、AED 研修やパソコン研修等の所内研修と派遣研修を実施しました。

## 7 入所施設利用者の地域生活移行の推進

平成 20 年度は、水内荘から 3 人、西駒郷から 25 人、合計 28 人が地域生活へ移行しました。

(平成 14 年度からの移行者数累計：水内荘 28 人、西駒郷 247 人合計 275 人)

## 8 サンアップル文化活動の充実

サンアップルの一室を開放し、1 月から新たに、誰でも気軽に文化活動を行える場として「アトリエあっぷる」(月 1 回)をはじめました。



建物外観とパンづくり(松本ひよこ)



事業団レベルアップ研修「お盆講座」  
上伊那会場(西駒郷)



アトリエあっぷる(サンアップル)



# 人事異動 (平成21年4月1日付)

## 新規採用

### 水内荘

支援員 棚田 英孝 (支援員)  
支援員 北澤 直人 (支援員)

### 西駒郷

支援員 河口 秀之 (管理部地域移行推進課)  
支援員 北沢 公司 (管理部地域移行推進課)  
支援員 真鍋 彰吾 (更生部あすなろ寮)  
支援員 斎藤 さつき (更生部あすなろ寮)  
支援員 坂井 妙子 (更生部あすなろ寮)  
支援員 松崎 高明 (更生部あすなろ寮)  
支援員 根村 隆司 (更生部ひまわり寮)  
支援員 森 愛弓 (更生部ひまわり寮)  
支援員 小川 千折 (更生部ひまわり寮)  
支援員 向山 洋子 (更生部ひまわり寮)  
支援員 池光 正典 (更生部さくら寮)  
支援員 保坂 明 (更生部さくら寮)  
支援員 伊藤 恵理子 (更生部さくら寮)  
支援員 小野 智子 (更生部訓練課)  
支援員 正木 壮一 (更生部訓練課)  
支援員 小池 謙 (生業部しらかば寮)  
支援員 小山 沙織 (生業部しらかば寮)  
支援員 中村 恭華 (生業部しらかば寮)  
支援員 飯島 裕介 (生業部しらかば寮)

### 松本ひよこ

支援員 濱田 多貴子

### 障害者福祉センター

主事 土屋 美香 (総務課)  
指導員 石村 祐輔 (スポーツ課)  
指導員 東 晋平 (スポーツ課)  
看護師 中村 直子 (スポーツ課)

### 事業所間異動等

#### 事務局

総務課長 浦野 かなえ (事務局 専門員)  
主事 中田 聡子 (西駒郷 主事)

#### 水内荘

専門員 原 さと子 (西駒郷 さくら寮副寮長)

#### 西駒郷

所長 岡庭 和義 (長野県) 飯田教育事務所長  
あすなろ寮長 小林 賢輝 (西駒郷 作業支援課長)  
ひまわり寮長 今村 信康 (西駒郷 専門員)  
ひまわり寮副寮長 小野沢 真 (西駒郷 主任支援員)

さくら寮副寮長 今村 秀枝 (西駒郷 主任支援員)  
しらかば寮長 田中 一則 (西駒郷 あすなろ寮長)  
しらかば寮副寮長 尾野 成彦 (西駒郷 主任支援員)  
支援員 矢島 慶一 (辰野 地活 支援員)  
作業支援課長 田中 一則 (兼)

専門員 柳沢 敏博 (水内荘 専門員)

ほっとワークス・みのわ  
所長 降旗 正章 (兼)

支援員 宮田 信子 (西駒郷 支援員)

ほっとワークス・グループホームケアホームセンター  
所長 埋橋 行雄 (兼)

専門員 北沢 和明 (兼)

伊那ゆいまーる  
所長 埋橋 行雄 (西駒郷 ひまわり寮長)

主任支援員 宮脇 孝浩 (兼)

主任支援員 有賀 美希恵 (西駒郷 支援員)

辰野町地域活動支援センター  
辰野町障害者就労支援センター  
所長 原科 正明 (兼)

支援員 落合 秀幸 (西駒郷 支援員)

サンアップル  
指導員 柴山 裕司 (サンスポーツ駒ヶ根指導員)

サンスポーツ駒ヶ根  
専門員 北沢 好宏 (サンアップルスーツ係長)

派遣期間終了  
事務局  
事務局次長 北原 和夫 (長野県社会部地域福祉課)

西駒郷  
所長 吉江 速人 (長野県福祉大学校)

主任支援員 増沢 哲也 (諏訪児童相談所)

支援員 下井 健吾 (阿南介護老人保健施設)

専門員 伊藤 理 (木曾介護老人保健施設)

支援員 岩田 清 (飯田児童相談所)

西駒郷  
調理師 宮下 秀男

調理師 佐藤 昭博

支援員 吉瀬 とよ子

ひまわり寮副寮長 村田 和子

支援員 宮下 朱美

ほっとワークス・みのわ  
支援員 小林 千鶴

## ● タイトルの由来 ●

事業団だよりのタイトルは全職員に公募をおこない、全89点の中から「やまなみ」が選出されました。  
信州の「やまなみ」のように雄大で揺るぎない事業団になることや、各事業所間や他団体との連携ができるように…といった願いが込められています。

## 編集後記

事業団だより「やまなみ」創刊号、いかがでしたか。  
積極的な情報開示が求められる今日、事業団は今年度を「情報発信元年」とし、今年4月に各事業所選出の職員により「編集委員会」を立ち上げ、本紙を発行しました。  
ここに、ご協力いただきました皆様に御礼申し上げますとともに、今後も紙面の充実を目指し、皆様からのご意見・ご感想をいただきたくお願いいたします。  
このような情報発信の取り組みをきっかけに、県内各圏域における地域福祉サービスの充実や他団体・事業所間のネットワーク化、パートナーシップの構築等、様々な相乗効果を期待しているところです。(中村)

## プレゼント

事業団だより「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等について、①郵便番号、②住所、③氏名 を記載のうえメールまたは郵便はがきにて法人本部 (事務局) までお寄せ下さい。

10月末までにお寄せいただいた方の中から抽選で、「八雲作業所」の「信州豊野八雲うどん 贈答用セット」を5名の方にプレゼントいたします。

なお、当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。  
(プレゼントの発送は11月頃を予定しています)

ココが一押し!  
この商品!



八雲作業所所長 榎 健次  
かめのメッセージ



注) 贈答用セットの内容は発送時期により上記と若干異なる場合があります。

「一生懸命麺づくり」を合言葉に、平成18年度より長野市豊野町に開設。「仕事として取り組むなら、地域に根付いた文化と係わりながら地域が必要とする仕事を」との想いで始めた麺づくり。「信州の自然が育んだ、長野県産小麦粉」を100%使用。明るくつやのある、もちもちとした食感と滑らかな、のど越しが堪能できる麺に仕上げました。また、今年度より信州の郷土食「おやき」の製造販売も始めました。是非ご賞味ください。

詳しくはHP (<http://park2.wakwak.com/~yagumo/>) をご確認ください。

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。



社会福祉法人 長野県社会福祉事業団  
〒380-0928 長野市若里七丁目1番7号 長野県社会福祉総合センター5F  
tel: 026-228-0337 fax: 026-228-0310  
URL: <http://park19.wakwak.com/nagano-shafuku-j/>